

1 教育目標

- 明 る く 健 康 な 子 ど も
- よ く 考 え 、 進 ん で や り 抜 く 子 ど も
- 力 を 合 わ せ て 働 く 子 ど も

2 本年度学校教育の努力点とその推進計画

(1) 努力点の主題 互いを認め合い、考えを深める子の育成

(2) テーマ設定の理由

令和5年度は、「自分の考えを深めることができる緑っ子」をテーマにタブレットの効果的な活用と対話の工夫を手立てとして実践を進めてきた。その結果、児童一人一人が自分の意見や考え方をもち（自律）、タブレットを活用して共有し、対話をしながら学ぶことができた（協働）ことは成果である。しかし、考えを深めるまでには至らなかった実践も多く見られ、自分の考えや意見を形式的に伝え合うだけの対話（協働）になってしまったことが課題としてあがった。

昨年度の校内研修では、明星大学から細水保宏氏を招き、細水氏の授業を参観したり、細水氏に模擬授業をしてもらったりする機会を設けた。細水氏の授業では、①児童一人一人が自分の考え方を表し（自律）、②表された考え方について友達と対話（比較・検討）すること（協働）の中で、それぞれの考え方のよさを味わう児童の姿が見られた。また、③発展する場を創り、児童が学んだことを生かして次の学習に取り組むこと（自律）も大切にしていた。

令和5年度に名古屋市教育委員会から示された、「ナゴヤ学びのコンパス」では、「ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける」児童の姿を目指すとされている。②仲間の力を借りたり、自分の力を貸したりする「協働」や、①③自分に合ったペースや方法で学ぶ「自律」は、細水氏の授業で大切にされていたことにつながる。

そこで令和6年度は本校の課題を踏まえ、細水氏の授業で大切にされていたことを各教科に取り入れて実践を進め、「互いを認め合い、考えを深める子の育成」を目指すこととした。

細水氏の授業で大切にされていたこと

- ①児童一人一人が自分の考え方を表すこと（自律）
- ②表された考え方について友達と対話（比較・検討）すること（協働）
- ③発展する場を創り、児童が学んだことを生かして次の学習に取り組むこと（自律）

(3) 実践の方法

① 授業実践

各学級担任は、年1回授業を公開し、指導方法や手立ての有効性について学び合う。公開する授業では、①②③すべてを取り入れなくてもよいこととする。各学年1学期に1実践、2学期に1実践となるように調整する。校長、教務が参観可能な日に行う。

② 事前検討について

実践の見せ場となる場面や指導する上で悩むところについて各部会で模擬授業（10～15分程度）を行う。異なる部会でも希望があれば参加可能とする。板書計画は、指導案に必ず掲載することとするが、模擬授業の板書の写真を指導案の板書計画に掲載してもよい。

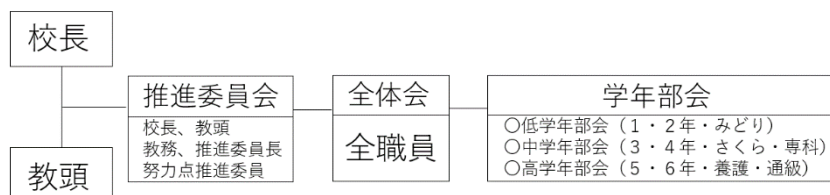
③ 事後検討について

各部会で事後検討を行い、成果と課題を共有する。

④ 保護者への情報公開

学校だより、学年だより、ホームページ等に努力点の取り組みを掲載する。学年だよりには、1学期、2学期に1回ずつ努力点の取り組みを掲載する。

(4) 組織



- ・ 各学年より推進委員を1名選出する。